

牛久：学校周辺に見る自然

第35号 稲敷市民農園

2011年8月29日発行

＜ 畑仕事のあいまに ～ 4. ミノムシが動いた！ ＞

夏休みも、もう終わってしまいますね。今回はミノムシなど、32～34号で紹介しきれなかった生きものたちです。皆さんも、宿題のやり残しがないか確認しておきましょう。



このところ、植物の紹介が少なかったなので、まずは今回めだった植物を二つ。何の花か分かりますか？「アザミ？」う～ん、おいしいなあ。これは**ゴボウ**の花。アザミと同じキク科の仲間なのです。野菜の花も、なかなかきれいなものではないでしょうか？



お次はこれ。大きな果実がぶらさがっていました。どうやら、**セイヨウナシ**のようです。たぶん、市の農園担当の方が植えていらっしゃるのだと思いますが、毎年少しずつ果樹の種類が増えていきます。果物の花も野菜に負けず魅力的な美しさをもっています。最近、校庭にも果樹が植えられていることが多く、どれも以前紹介していますが、ひたち野うしく小にもリンゴ、ミカン、ブルーベリーが、中根小にはカキとクリ、牛久二小にはアンズとクワがありましたね。



さて、次は今回のタイトル、ミノムシです。何種類か仲間がありますが、これは**オオミノガ**。はじめ左の写真の位置から見て、「クリの枯れ葉が動いてる！」と思いましたが、右の写真のように反対側から見て、ミノムシであることが分かりました。葉の中央脈ちゅうおうみやくにしっかりとつかまりながら移動していたのでした。このガは外国から来たオオミノガヤドリバエきせいに寄生げきげんされて激減し、絶滅危惧種ぜつめつきぐしゆに指定している県もあります。



左の写真は、ミノムシではありません。以前、17号でご紹介した、**クスサン**というガのまゆです。場所から考えて、あの時の幼虫がここでまゆをつくり、さなぎになったのだと思います。クリの葉に半分包まれています。網かごのような丈夫なまゆで、その形から「透かし俵」とも呼ばれます。幼虫は食欲がすごいです。それでも木が丸裸にされてしまうことはめったにありません。鳥など他の動物のエサになるからです。うまく自然のバランスがとれていれば、害虫が増えて農作物に大きな被害をもたらすこともないのです。



こちらは、イネやキク科、マメ科などの害虫として知られる**ブチヒゲカメムシ**です。写真のようにオニノゲシのつぼみにいて、つぼみの先には卵もありました。カメムシは臭いにおいを出すので嫌われ者ですが、もようがきれいだと好む人もいます。私も最近、幼虫のもようや色が成虫と違っていたりして、その魅力を感じるようになりました。



もう一つ、嫌われ者の**センチクバエ**。交尾中で、近づいて写真をとっていても、あまり逃げようとはしませんでした。

最後に、おなじみの**ナナホシテントウ**と**ベニジミ**（シジミチョウ科）。

おまけに、雨上がり、きれいにかかった虹をどうぞ。

【理科支援員 宮内】

